

(公財) 北海道サッカー協会 御中

令和7年4月20日

2025年度 第1回北海道レフェリーアカデミー 事業報告

報告者：二谷夢翔（北空知地区）

【日時】4月5日（土）、4月6日（日）

【場所】帯広大谷高校グラウンド、帯広の森市民プール会議室

【参加者】審判員：伊藤唯翔、高橋陽斗、鈴木辰汰、二谷夢翔

インストラクター：古曽部統太郎 氏（RAM）今川一輔 氏（RAI）

平石暁史 氏（RAI）岡田渉 氏（RAI）伊藤真也 氏（RAI）

【テーマ】「基本を徹底する」

4月5日（土）

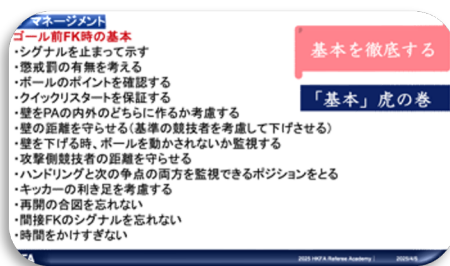
13:00 集合

13:30 開講式 オリエンテーション・アカデミー生として求められるもの

開講式では、自己紹介やメンターの発表を行った。1人の審判員に1人のインストラクターが担当となり今後2年間活動していくことになった。

オリエンテーションでは、地域 RAC 事業の具体的な位置づけと目的や、4 コーナーの審判モデルなど、細かい内容について確認を行った。

14:00 競技規則講義 「基本を整理する」 古曽部 RAM



サッカー審判員が行うべきことについて、「基本」とはどんなことか、審判員とインストラクター全員で意見を出し合い、整理していった。具体的には、「判定をするとき」「警告・退場を決定して示すとき」「アドバンテージ」「GK」「スローイン」「CK」「ゴール前 FK」「公正・公平と思われるための」「動き」「ポジショニング」「主審と副審の協力」「オフサイド」の項目に分けてディスカッションを行った。今回整理した「基本」は、回を重ねるごとにブラッシュアップされていくもので、どんどん意見を出し合っていくことを確認した。

「基本」を疎かにせず、「基本」あつての「応用」であることを忘れずにレフェリングに活かしていきたい。

16:00 フィジカル講義 Physical management「Physical の考察（意義・課題） 岡田 RAI

なぜ、フィジカルが必要なのか、フィジカルの基本とは、について全員で考え発表した。そしてパズルの裏にフィジカルの要素を 12 単語、表に目標を絵や文字などにして記入すること（ドローイング）で、自分のフィジカルに対する考え方や捉え方を整理していった。



16:50 諸連絡・解散

4月6日（日）

8:45 集合

10:00 試合実践 帯広大谷高校 vs 北海道十勝スカイアース TM

20分 1本目 伊藤唯翔 担当 INS：今川 RAI

<主審振り返り>

シーズンが始まり、久しぶりに社会人チームの試合を担当しました。ポゼッションを重視するチームで、高校生の試合とは異なり、意表を突くようなプレーが多くみられました。序盤5分ほどはポジショニングに戸惑いましたが、徐々に対応できたと思います。SPA や DOGSO の見極めの感覚を取り戻しながら、公式戦に向けてトレーニングを重ねていきたいと思う。

20分 2本目 鈴木辰汰 担当 INS：伊藤 RAI

20分という短い時間、前半の後半部分のみとイレギュラーな状況であったが、全体的に落ち着いて行うことができた。判定の部分に関しては適切に状況を判断して行うことができたが、争点からの距離が遠かった、出し手と受け手の同一視ができるポジションをとることがあまりできなかった等で課題があったと感じたため、今後の活動で改善していきたい。

20分 3本目 高橋陽斗 担当 INS：平石 RAI

20分という少ない時間であったが起った反則に関しては良い立ち位置で監視することができていたと思う。しかし中盤で巻き込まれてしまうことがあり、今後の課題であると感じた。また、予期せぬトランジションに対応できるポジショニングにもこだわりたい。

20分 4本目 二谷夢翔 担当 INS：岡田 RAI

まずは選手が100%のパフォーマンスを出せるように最大限努力した。判定基準は一貫していたと振り返る。だが、ファールはファールであるが、試合の雰囲気、状況などを考慮することができず、誰も気にしていないファールをとってしまった。これからの試合ではこれらの点にも気にかけてレフェリングすることに心がけたい。

11:40 スモールプラクティカル「F K時の主審のポジショニングについて」



F K時の主審のポジショニングについて確認を行った。ボールから壁まで規定の距離を歩測する際に、どのようなことを意識して歩測しているのか。そして歩測した後、どのような目的でポジショニングをとるか、などを学んだ。PA 内の争点を見落とさないためにどこで監視するか、そのポジションに行くまでの動きを逆算しながら FK マネジメントを行わなければならないと感じた。

13:40 試合振り返り



14:30 講義 審判実技から感じた課題（前日確認した「基本」について） 平石 RAI

前日確認した基本をもとに振り返りを行った。各審判員の良かった点などを共有した。課題点だけでなく良かった点も共有することで、お互いの引き出しが増えると感じた。他の審判の試合からも多くのことを学ぶことができると感じた。特に、シーズン初めの試合実践ではあったが、スプリント、トランジション、対角線式審判法を基本として予測をもとにした動き、PA周辺の監視のためのステップワークなど、“動きとポジショニング”で随所に良かった点が見られたことから、2025シーズンに向けて各審判員がいい準備をしていることが感じられたことが、良かった。

15:30 諸連絡・解散

